

発行所 〒102-0083
 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル内
 公益社団法人日本海洋少年団連盟
 電話 03(5213)4778
 (年6回奇数月の1日)
 購読料 1部10円(送料実費)
 会員会費には購読料が含まれる
 振替東京 5-13846番

海洋少年団通信

Japan Sea Cadet Federation



ち かい

1. 海のような広い心で団結し
すべての人を友とします。
2. からだをきたえ、心を養い
立派な海の子になります。



9月2日、名誉総裁の
 絢子女王殿下が高円宮妃殿下とともに、八

名誉総裁 八戸海洋少年団を御視察

当日は、前日の雨と打って変わって良い天気となり、絶好の訓練日和、御視察日和となりました。

両殿下は、午前中、八戸海上保安部の巡視艇に乗船し、八戸団のカッター訓練を御視察されました。八戸団の2隻のカッターは「権立」の敬礼をして両殿下を奉迎しました。



名誉総裁は、昨年の全国大会に御臨席されましたが、台風でカッター競技が中止になったため、カッターを御覧になるのは今回が初めてでした。

午後からは、場所を体育館に移し、手旗訓練、ロープワーク訓練



霞ヶ浦海洋少年団
 7月15日(日)午前9時から霞ヶ浦のラクスマリーナで霞ヶ浦海洋少年団の結団式が行なわれました。

最初に石渡副団長から

ら団設立の経緯説明のお話があり、宮原日本海洋少年団連盟会長からの祝辞の後、五頭霞ヶ浦海洋少年団団長に団旗と団長章が授与されました。

五島市海洋少年団
 7月14日(土)、五島市三井楽公民館ホールにて、五島市海洋少年団の結団式が行われました。

午前9時半からは八坂神社による安全祈願が執り行われ、その後、全員で写真撮影を行いました。

団長の挨拶のあと、来賓の祝辞に続き、団員代表の宣誓が行われました。

その後、福田海洋少年団関東地区連盟会長から歓迎の言葉が述べられ、式典を終了しました。

霞ヶ浦海洋少年団 五島市海洋少年団誕生!!

7月2日、申請のあった茨城県の霞ヶ浦海洋少年団及び長崎県の五島市海洋少年団の日本海洋少年団連盟への加盟が理事会で承認され、それぞれ結団式が行われました。新しい仲間をよろしくお願ひします。

五島市海洋少年団は、団員22名、役員・指導者等34名、父母会26名、支援団体34団体、支援者24名で構成され、6月4日設立総会、7月2日、日本海洋少年団連盟に加盟が承認され、この日に結団式を挙行了したものです。



式典では、国歌斉唱、五島市海洋少年団設立の趣旨と経緯の説明のあと、日本海洋少年団連盟権藤副会長から、団旗と団長章が草野団

長に授与されました。団長挨拶、団員紹介のあと、来賓の野口五島市長から祝辞をいただき、日本連盟の権藤副会長からもお祝いと歓迎の言葉がありました。

最後に団員代表の宣誓があり、式典を終了しました。

団員は新しい団とは思えないきびきびとした動作で式典を盛り上げていました。



を熱心に御視察されました。

八戸団では手旗で「八戸へようこそ」とメッセージを送り、指導者から手旗の仕組みについてご説明をいたしました。

その後、ロープワーク、手旗送受信等各種訓練を実施している場所を巡回され、ロープワークの訓練では、指導者から結び方の手ほどきをお受けになりました。

訓練終了後、両殿下は少年団員と懇談され、緊張する団員にやさしくご質問になり、団員も徐々に緊張がほぐれ、リラックスして懇談することができました。

今回の御視察には30人以上の報道陣が詰めかけ、NHKのニュースで放映されるなど世間の関心も高く、海洋少年団に対する理解を深めることができました。



海洋環境教室では海上保安庁のマスケットキャラクター「うーみん」が登場し、環境問題を楽しく学び、ビーチコーミングでは、海岸に流れ着いたゴミを集めて種類別に分類した。ビニールの包装紙など陸上から海に運ばれるものが多いことを学んだ。

2日目は宜野湾マリーナで、ヨット、カヌー、SUP、バナナボート、サバニなどのマリンスポーツ体験や、また今回初めて名護市にある国際海洋環境情報センター(GODAC)の協力を得て、小型の水中TVカメラロボット(ROV)のパイロットトレーニングの体験も行った。

子供達のほか保護者を含め190人程が参加したが、子供達の感想文には、「沖繩のサンゴが年々減少していると知って、海を大切にしたい」と思っていた。「イルカや亀が海に捨てられたゴミをクラゲと間違えて食べてしまうこ



7月2日、台風7号が久米島付近を通過・北上し、次の台風8号も沖縄方面への進路が予想され開催が心配されたが、両日とも沖繩らしい晴天の下で行うことができた。

1日目は、読谷村のホテル日航アリビラ等で海洋環境教室、サンゴ苗の植え付け体験、ビーチコーミングが行われた。

第11回「美ら海体験教室」開催

第11回目となる「美ら海体験教室」が7月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、日本海洋少年団連盟、沖縄地区連盟、宜野湾はごろも海洋少年団が主催し、(一財)近藤記念海事財団の共催を得て、また、第一管区海上保安本部、那覇海上保安部、宜野湾市及び宜野湾市教育委員会の後援を得て沖繩で開催された。

子供達のほか保護者を含め190人程が参加したが、子供達の感想文には、「沖繩のサンゴが年々減少していると知って、海を大切にしたい」と思っていた。「イルカや亀が海に捨てられたゴミをクラゲと間違えて食べてしまうこ

今月の主な記事
 2面〜3面 地区大会特集
 4面 我ら海の子展、初代「忍路丸」船名板返還式、各団ニュース、みどりの広場、4コママンガ、連盟だより他



とがあると聞いて、ゴミを持ち帰るだけでなく捨てる人に注意していきたい。「英語で書かれた外国から来たゴミがあってビックリした。」「サンゴの植え付けとビーチコーミングが自然と関係しているとても楽しかった。」「これからも海のことを思い、汚さないようにしていきたい。」「マリンスポーツは、いろんなものに乗れたので楽しかった。」などと書かれており、海で体験し、海を考える良い機会になった。



2018 地区大会特集

第57回北海道地区大会

友情の輪を広げて



北海道命名150年目を迎えた本年、8月4日から3日間の日程で、参加各団の実行委員会方式により、札幌団、釧路団、根室団の参加で北海道地区大会を開催した。

初日は、石狩市弁天会館において各団長・指導員による実行委員会及び競技委員会を開き、矢川北海道地区連盟会長の挨拶を皮切りに開会式を厳粛に行った。

初日は結索競技を実施。個人競技として5種類の課題にチャレンジした。競技では満点合格者が続出し、日頃からの訓練の成果が実を結んだ結果となった。

2日目は、早朝から手旗受信競技を実施。初等級から高等級までの一同に対して無意味・有意味各50文字の受信競技と検定を行った。満点合格者が一人のみと難しい競技課題となったが、皆、真剣に取り組んでいた。

朝食後は石狩B&Gプールにおいて、水泳競技を実施した。初等級・中等級・高等級の男女別に自由形タイム



レースとリレー競技を行い、熱のこもった勝負が繰り広げられた。引き続き、会場を札幌真駒原訓練所に移し、紺碧の空に白い雲が浮かぶ、北海道らしい爽やかな気候の中、カヌー競技を実施した。折返し200mのコースで、個人によるタイムレースと、各団上位3名の合計タイムにより順位を決める団体競技

を行った。パドルさばきも素晴らしく速いタイムでのゴールに、大きな拍手で迎えられ、団員達は皆、満足感いっぱいの表情を浮かべていた。競技後は海水浴と温泉を堪能した。また、夕食ではジンギスカンを囲み楽しいひと時を過ごした。

最終日、宿舎の清掃を行い、続く閉会式では競技結果の発表に続き、由喜門競技委員長からの講評があり、精彩を放った訓練の成果が称えられた後、表彰を行った。欠席の団があり、少人数での開催は残念だったが、その分、友情の輪も広がりました。

素晴らしく、絆がなお一層深まった大会となりました。最終日、宿舎の清掃を行い、続く閉会式では競技結果の発表に続き、由喜門競技委員長からの講評があり、精彩を放った訓練の成果が称えられた後、表彰を行った。欠席の団があり、少人数での開催は残念だったが、その分、友情の輪も広がりました。



キャンプファイヤー

第19回東京地区大会

興味深かった船長の話



8月24日(金)から26日(日)に於いて、東京地区大会を、宿泊は「東京海員会館」で、競技会場は「大森ふるさとの浜辺公園」で開催し79名が参加しました。今回の地区大会は、レレ全国大会と位置づけ、宿泊場所から来年全国大会でカッター、カヌー等の実施予定地の競技会場まで電車の移動を行いました。

一日目は各団集合と一般社団法人日本船長協会から鐘ヶ江船長、長田船長をお招きし、船長講話をしていただきました。色々な船の話やクイズ形式での海の話など、船長の話に



船長講話

団員が聞きいっていましたが、翌日には団員に感想文を書いてもらいました。話がとても興味深かったのか力作が多かったです。二日目は開会式後、猛暑と強風の中、手旗ロープ競技を行いました。

た。カヌー競技は準備万端で競技を行う予定でしたが、荒天のため、残念でしたが中止しました。三日目は海洋大学でまた猛暑の中、カッター、カヌー訓練を行い、暑さにも負けず楽しく訓練を行いました。今回の地区大会は来年度の全国大会を見据えて行いましたが、競技よりも熱中症対策が一番だと感じました。

地区大会開催に当たり大田区役所をはじめ、支援して頂いた父母の方々、各団指導員のご協力で無事に地区大会を終了する事ができました。ありがとうございました。

中部地区連盟は8月4日(土)〜5日(日)にかけ、愛知県東部の豊橋市野外教育センターにおいて第21回中部地区大会を開催しました。愛知県連、三重県連、福井県連の合計8団が参加し合計100名を超え

のそばで実施している大会を山で実施するという一風変わった大会となり、高原のさわやかな気候の中、手旗と結索の競技を実施し、日ごろの訓練の成果を競い合った。

競技は手旗競技と結索競技を2日に分けて行なった。今大会は参加団員の約半数が年少団員であるため、従来の競技内容に加え、手旗競技では原画受信、結索競技では結びの難易度や課題種目数を減らして実施し、より多くの団員が参加できるようにした。団体競技において(手旗送受信



地引網体験

第21回中部地区大会

初めての地引網体験



仲間が豊橋の地に集まりました。大会初日は開会式後

に競技を行い、手旗受信競技、手旗送受信競技、ロープワーク個人競技、ロープワーク団体競技を行いました。

参加団員は日頃の訓練の成果を発揮できたものと思います。競技後は各団との交流のため参加者全員を1〜10班に再編成し、飯盒炊飯や宿舎での生活を今日初めて会った仲間とともに協力しました。普段とは違う仲間との共同生活を体験

して新たな発見や友情が深められたものと思います。夕食後はキャンプファイヤーに参加したみんなで行い、にぎやかなキャンプファイヤーになりました。また最後には、大迫力な打ち上げ花火を間近で見れて大きな歓声と拍手が自然と湧き上がる感動を味わえました。

地引網体験

第23回関東地区大会

海の子、山に集う



8月18日(土)から19日(日)まで、第23回関東地区大会(藤沢団主催)が開催され、関東地区連盟4団約80名が参加した。会場は、長野県南佐久郡南牧村にある藤沢市八ヶ岳野外

のそばで実施している大会を山で実施するという一風変わった大会となり、高原のさわやかな気候の中、手旗と結索の競技を実施し、日ごろの訓練の成果を競い合った。

競技は手旗競技と結索競技を2日に分けて行なった。今大会は参加団員の約半数が年少団員であるため、従来の競技内容に加え、手旗競技では原画受信、結索競技では結びの難易度や課題種目数を減らして実施し、より多くの団員が参加できるようにした。団体競技において(手旗送受信



キャンプファイヤー

結索競技では結びの難易度や課題種目数を減らして実施し、より多くの団員が参加できるようにした。団体競技において(手旗送受信

表彰式では、副賞として各個人競技の満点者と団体競技の入賞者に、パワーのある下り竜になぞらえて梱包したお菓子を、藤沢団森団長から「これから

も訓練に励むように」とのメッセージを込めて手渡した。今大会は山での開催ということもあり、各団には現地までの移動に多大な苦勞をかけたしまつたが、各地が猛暑と騒がれている中で大きな事故もなく、無事に全日程を終了した。(藤沢団 高坂 偉成)

第22回近畿地区大会

避難所体験やキャンプファイヤーも

今回の地区大会開催は、昨年の初めに淡路島に決まっていたのですが、3回も変わり、結局、淡路島は7月にアウト。ギリギリで舞鶴市の青葉山ろく公園に決まりました。

今回の大会のテーマは、いつ自分にも起こるかもしれない「避難所体験」、「片言の英語の練習」、「他の団の人と仲良くパフォーマンスをする事」、もちろん基本訓練と競技などです。



缶切り初体験

8月18、19日の2日間、大会が上手くできるか心配でした。舞鶴は暑い所ですが、その日はさほど暑くはありませんでした。姫路団、神戸団、大阪みなど団、舞鶴団の4団70名が参加しました。手旗とロープワーク競技は、みんな真剣に頑張りました。競技後、シャワーは

6個しかありませんでしたがリーダーが12個のトランシーバーで連絡を取り合い、混乱もなくスッキリできました。夜ごはんは避難所と同じ缶詰めを缶切で開けて食べる訓練です。はじめて缶切りを使う団員もいて、何とか手伝わしてもらい、開けることができました。全員完食しました。私達は模擬体験ですが実際の避難所は、食事やトイレなどもずっと不便なので、実際の避難所生活よりもマシだと思います。



行進の練習

次日は、閉会式の前に、行進や基本の動作訓練の後、用意した3枚のハガキを、ほかの団員3人をつかまえて住所を書いてもらうというゲームをしました。続いて表彰式を行いました。無事終わりました。皆さんありがとう。

（近畿地区連盟 会長 福谷 光二）

第13回中国地区大会

白熱した競技・熱気あふれる応援



中国地区大会は、8月17日から3日間、山口県山口市秋穂の「山口県セミナーパーク」を主会場に、村岡副知を主催の「山口県知事をはじめ多くの来賓のご臨席を頂き、8団・183名の団員・指導者・保護者」

支援者が集まり、宇部市の主管で開催されました。開会式では、7月の豪雨災害により亡くなられた方のご冥福を祈り一分間の黙とうを捧げるとともに、被災された方々の一刻も早い復旧・復興を祈りました。

また、この大会を指して頑張ってきた呉団の仲間が、集中豪雨の被災からの復興がままならず、参加を断念されたことに、全員が残念に思い、またの再会を祈りました。さて、大会は手旗競

技・ロープワーク競技のA種目(初等級以上)とB種目(教育級・初等級)・水泳競技の3種目で日頃の成果を競い合いました。初日は手旗受信競技「ときわ公園」に移動し、宇部市職員と「彫刻く文字、B種目原画20文字の課題を、送受信競技には8団が参加し、正確さと時間を競いました。ロープワーク個人競技は、A種目10課題、B種目5課題を5分以内で結び、団体競技Aは20課題を、Bは12課題をそれぞれ4名で10分以内に結びタイムレースを行いました。2分余りで結ぶ団もあり白熱した競技となりました。

二日目は2大会ぶりに復活した水泳競技が、

第19回九州北部地区大会

軍艦島周遊やハタ作り体験も

8月3日(金)から5日(日)まで、長崎市長代理、長崎県議会議長、九州運輸局長崎運輸支局長、長崎海上保安部長、長崎県水難救済会会長、海上保安協会門司地方本部長崎支部長等のご臨席をいただき、日吉自然の家にて開催され、各団指導者・団員122名の参加、保護者及び支援者39名の協力を受け、「長崎市



日吉自然の家」にて開催した。一日目は、長崎市教育級男子団員・女子団員)の団員宣誓を行なって無事開会式を終了した。その後、休憩をとり、ロープワーク団体競技・個人競技、手旗受信競技、送信受信競技を実施した。手旗受信競技では、送信者・補助員を長崎海上保安部職員協力で行い、団員達は日頃の訓練の成果を十分に発揮していた。

大会中の団員の編成は、団行動ではなく各団混合の班編成を行ない、初めて同じ班になった。団員、もう顔見知り団員もあったが有意義な行動がとれていた。班編成後、長崎海上保安部職員による、「水辺の安全教室」と題して、レクリエーション形式によるユーモアを交えた楽しい交流会を実施して頂いた。二日目の午前中は、長崎港を船から見学後、通称「軍艦島」を船内より見学し、帰港途中、長崎海上保安部巡視艇、長崎市南消防署消防艇、水難救済会船舶の放水模範訓練披露を見学しながら長崎港に帰港した。港を離れ、午後からは「長崎ペンギン水族館」を見学、ペンギン達と触れ合う機会が出来た。

（第19回九州北部地区大会実行委員会 副本部長 赤穂秀伸 (長崎県連盟事務局長)



ハタ完成!

三日目は、朝から施設内の清掃を全員で協力して実施した後、長崎伝統の「ハタ」作りを行い、出来上がった団員は、指導者の指導で体育館内を元気にいっばいに「ハタ」を揚げ走り回っていた。

午後から閉会式を行い、大会会長挨拶の後、競技成績の発表があり、互いの成績を讃え最後に、実行委員長のお礼の言葉で閉会式を締めくくり、次回の再会を誓い長崎県連盟の団員が見送る中、事故もなく大会を終了した。

第21回南九州地区大会

牛深の透き通る海で体験航海



8月3日から5日までの3日間、熊本県天草市牛深町で牛深団、鹿兒島団、奄美瀬戸内団、熊本火の国団の団員・指導者・保護者総数約60名が参加し、第21回南九州地区大会が開催されました。牛深町では6年ぶりの開催です。初日は鹿兒島団と奄美瀬戸内団を、地元牛深団員が港でお出迎え。続いて、須口地区健康センターで開会式が行われ、来賓の大野貴敬天草海上保安署長から祝辞をいただくなどし、大会の成功を誓いました。他団の団員たちと初めて顔を合わせ、みんな緊張気味でしたが、開会式終了後、班別に分かれ自己紹介や、レクリエーションで交流するうちに少しずつ打ち解け、夕方には牛深団指導者や保護者お手製のカレーライスの夕食を一緒に楽しみました。

2日目は午前中手旗と結索の個人競技。手旗では受信競技、また結索では天草海上保安署署員に審判員として参加してもらい、参加団員は真剣な表情で個人競技に臨みました。午後からは天然の白い砂浜が自慢の「砂月海水浴場」での屋外活動です。ここからは熊本火の国団も参加し、整列・人員点呼の後、海への感謝の思いをこめ全員で砂浜のゴミを拾い集めました。続いて班ごとに分か

た大会でまた会えることを楽しみにして下さい。この3日間を忘れず、次の大会でまた会えることを楽しみにして下さい。この3日間を忘れず、次の大会でまた会えることを楽しみにして下さい。

大会開催に際し、関係諸機関をはじめ地元のみならずの多大なご協力を賜りました。また「熊本日日新聞」にも団員たちの引き締まった表情が掲載され大きな励みになりました。感謝申し上げます。この夏の暑さにも負けることなく、団員たちは絆を深め、りっぱな「海の子」へとまた一歩近づいた大会となりました。



砂月海水浴場でゴミ拾い

第46回 絵画コンクール 「我ら海の子展」



平成30年度事業の「我ら海の子展」を一般財団法人サークルクラブ協会との共催で実施したところ、募集期間4月1日から6月30日までの2ヶ月で全国から6243点の作品が集まった。

最終審査会

1次2次審査を経て、最終審査会を7月20日、ホテルニューオータニにおいて各関係団体の代表者をはじめ、特別審査員の安倍昭恵氏、さかなクン、河井リツ子氏、榎木孝明氏ほか多数の関係者が出席し、厳正な審査を行った。

今年度から大臣賞は日本賞8点の全61点の優秀な作品が選ばれた。



授賞式 8月17日、同ホテルにおいて、第46回我ら海の子展授賞式が行われた。

授賞式では国土交通省水嶋海事局長より国土交通大臣賞の表彰状が授与された。引き続き大臣賞の受賞者の横山智樹さんから代表挨拶があり、受賞の喜びや作品を描いた様子が述べられた。

そのほか、清水団の金子侑生さん、佐世保団の川村千光さんがそれぞれ銀賞を受賞した。



初代「忍路丸」

船名板返還式

深沢海洋少年団では、2009年「おしよる丸」の就航100周年ごろから返還を検討しはじめ、今回実現することになったもの。



北海道大学水産学部の初代練習船「忍路丸」(おしよる丸)の船名板が90年ぶりに返還された。

「忍路丸」は1909年に建造され、北大の漁業実習などで活躍の後、少年団日本連盟(現ボーイスカウト日本連盟)に譲渡され、船名を「義勇和邇丸」(ぎゆうわにまる)に変え、遠洋航海も実施した。船名板は、「義勇和邇丸」の機関長の田村喜一郎さんが保管していたが、田村さんが亡くなった後、深沢海洋少年団の手に渡り、加藤副団長が保管していた。



みどりの広場

「自動車運搬船を見学して」

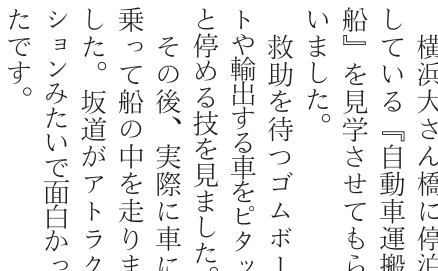
目白台団 近藤 拓海



私は今回初めて自動車運搬船に乗りました。乗船してみると船内は本当に広くて、とても驚きました。船内では機関室の見学や船に車を固定するといった貴重な体験ができて楽しかったです。その中でも一番印象的だったのが、船内に駐車する作業です。隣の車との間隔が拳一つ分で駐車されていく様子はとてもすごかったです。貴重な体験をありがとうございました。

「自動車運搬船を見学して」

目白台団 近藤 和心



横浜大さん橋に停泊している「自動車運搬船」を見学させてもらいました。救助を待つゴムボートや輸出する車をピタッと停める技を見ました。その後、実際に車に乗って船の中を走りまわりました。坂道がアトラクションみたいで面白かったです。英語で色々と言われていたところが多くありましたが、私も船の仕事には、「機関室」です。

連盟だより

○今年の夏は異常な暑さが続きましたが、皆さん元気に活動されていることと思います。連盟にも活発に行われた各地区大会の報告が届いています。

○名譽総裁の八戸団御視察については、八戸

の新任が仲間に加わりました。日本連盟からは宮原会長、権藤副会長がそれぞれ結団式に出席し、団旗と団長章を手渡しました。皆さん、新しい仲間を温かく迎えていただきたいと思います。

名譽総裁が御視察されることは、世間の海洋少年団に対する理解が深まり、認知度の向上が期待されることを期待しています。

南勢団

☆伊勢えび祭り☆

6月2日(土)、志摩地方に夏を告げる、隣の志摩市浜島町の伊勢エビ祭りに団員、保護者、指導者16名が今年も参加しました。数千人の観衆の中、団や連盟ののぼりを先頭に、全員が手旗を持って道中踊りの「じやこっぺ踊り」に跳ねてきました。全員汗まみれになりましたが、今年「チームワーク



をしたいと思います。夢があるので、この見学で色々な職種の人と話ができ、たくさん教えてもらって嬉しかったです。

平成30年度 日本海洋少年団連盟表彰 おめでとございます

- 有功表彰
 - 〔宇部〕 後山浩、笠井百合夫、岡野美雪
 - 〔褒状〕
 - ◇高等級3年団員
 - 〔三原〕 高橋由依
 - 〔たじり〕 松野美桜
 - 〔佐世保〕 久保千晶
 - ◇中等級3級終了団員
 - 〔三國〕 山本彩貴
 - 〔宇部〕 山中芹菜、竹森健太、畑谷透哉
 - 〔福山〕 石見幸太郎
 - 〔佐世保〕 森元陸、稲田健太

うみた ひろみ VOL.143 海太と洋美 作・ちはへーた



台風はどっち? わたしはこっち! もちろん! 知っているよ! 風を背中にうけて、左斜め前が台風が目がある方向だよ!

海太すっけい! えっ? ね... 台風と風のこと勉強しようね!

○第54回全国大会の準備を進めています。実行委員長、実行委員、各専門部会の担当者も決まり、10月には団長会議が開催できるよう、これから精力的に作業を進めていこうと思います。これまでとは一味違う大会になることを期待しています。